

取扱説明書

ATS 1000

Network Attached Storage



Allied Telesis
R & D CENTER YAMANASHI

取扱説明書

ATS 1000

Network Attached Storage



Allied Telesis
R & D CENTER YAMANASHI

安全のために

Safety 必ずお守りください

警告

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

分解や改造をしない

- 本製品に対して、取扱説明書に記載のない分解や改造はしないでください。
- 火災や感電、けがの原因となります。

雷のときはケーブル類・機器類にさわらない

- 感電の原因となります。

異物はいれない 水は禁物

- 火災や感電の恐れがあります。水や異物を入れないように注意してください。万一水や異物が入ってしまった場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。(サポートセンターまたは販売店にご連絡ください)

通風口はふさがない

- 内部に熱がこもり、火災の原因となります。

湿気やほこりの多いところ、油煙や湯気のあたる場所には置かない

- 内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

表示以外の電圧では使用しない

- 火災や感電の原因となります。
- 本製品はAC100～120VおよびAC220V～240Vで動作します。
- なお、本製品に付属の電源ケーブルは100V用ですのでご注意ください。

正しい電源ケーブル・コンセントを使用する

- 不適切な電源ケーブル・コンセントは火災や感電の原因となります。
- 接地端子付き3ピン電源ケーブルを使用し、接地端子付き3ピン電源コンセントに接続してください。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしない

- たこ足配線などで定格を超えると発熱による火災の原因となります。

設置・移動の時は電源プラグを抜く

- 感電の原因となります。

電源ケーブルを傷つけない

- ・ 火災や感電の原因となります。
- ・ 電源ケーブルやプラグの取扱上の注意：
 - ・ 加工しない、傷つけない。
 - ・ 重いものを乗せない。
 - ・ 熱器具に近づけない、加熱しない。
 - ・ 電源ケーブルをコンセントから抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

上に重いものを乗せない

- ・ たわみにより内部回路のショートの原因になり、火災や感電の恐れがあります。

- ・ 本装置を落としたり、破損した場合、電源プラグをACコンセントから抜いてサポートセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。
- ・ 本装置の内部に水などの液体が入った場合は、電源プラグをACコンセントから抜いて、サポートセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。
- ・ 異物が本装置の内部に入った場合は、電源プラグをACコンセントから抜いて、サポートセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電、故障の原因となることがあります。
- ・ 電源コードが傷んだときは、すぐに電源プラグをACコンセントから抜いてサポートセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。
- ・ 本装置から煙が出る、変な臭いがするなどの異常状態が発生した場合はすぐに電源プラグをACコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してサポートセンターにご連絡ください。そのまま使用すると火災、感電の原因となることがあります。

ご使用にあたってのお願い

次のような場所での使用や保管はしないで下さい。

- ・ 直射日光の当たる場所。
- ・ 暖房器具の近くなどの高温になる場所。
- ・ 急激な温度変化のある場所。(結露するような場所)
- ・ 湿気の多い場所や、水などの液体がかかる場所。(湿度80%以下の環境でご使用ください)
- ・ 振動の激しい場所。
- ・ ほこりの多い場所や、ジュータンを敷いた場所。(静電気障害の原因になります)
- ・ 腐食性ガスの発生する場所。

静電気注意

- ・ 本製品は、静電気に敏感な部品を使用しています。製品が静電気破壊する恐れがありますので、コネクタの接点部分、ポート、部品などに素手でふれないでください。

取り扱いはいかに

- ・ 本製品はハードディスクを内蔵しております。落としたり、ぶつけたり、強いショックを与えないで下さい。

お手入れについて

清掃するときは電源を切った状態で

- ・ 誤動作の原因になります。

機器は、乾いた柔らかい布で拭く

- ・ 汚れがひどい場合は、柔らかい布に薄めた台所用洗剤(中性)をしみこませ、強く絞ったものでふき、乾いた柔らかい布で仕上げてください。

お手入れには次のものは使わないで下さい

- ・ 石油・みがき粉・シンナー・ベンジン・ワックス・熱湯・粉石けん(化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書に従ってください)

ご注意

- 本書の中に含まれる情報は、当社（株式会社アライドテレシスR&Dセンター山梨）の所有するものであり、
- 当社の同意なしに、全体または一部をコピーまたは転載しないでください。当社は、予告無く本書の全体ま
- たは一部を修正・改訂することがあります。また、改良のため製品の仕様を予告無く変更することがあります。
- Copyright 2004 株式会社アライドテレシスR&Dセンター山梨

商標について

- Windows、WindowsNTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- 本書の中に記載されているソフトウェアまたは周辺機器の名称は、各メーカーの商標または登録商標です。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

マニュアルバージョン

- 2004年6月 Rev.1 初版

はじめに

Foreword

このたびは、ATS1000をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この取扱説明書は本製品を正しくご利用いただくための手引きです。必要なときにいつでもご覧いただくために、保証書とともに大切に保管くださいますようお願いいたします。

目次

Table of Contents

▪ 安全のために	4
▪ はじめに	7
導入編 お使いになる前に	9
▪ 梱包内容	10
▪ 各部の名称と働き	11
▪ LED表示	13
Chapter1 クイックインストレーションガイド(基本設定)	15
Chapter2 詳細設定	37
付録	49
▪ 用語集	50
▪ 困ったときに	51
▪ 仕様	53
▪ 保証とユーザサポート	54

導入編

お使いになる前に

梱包内容

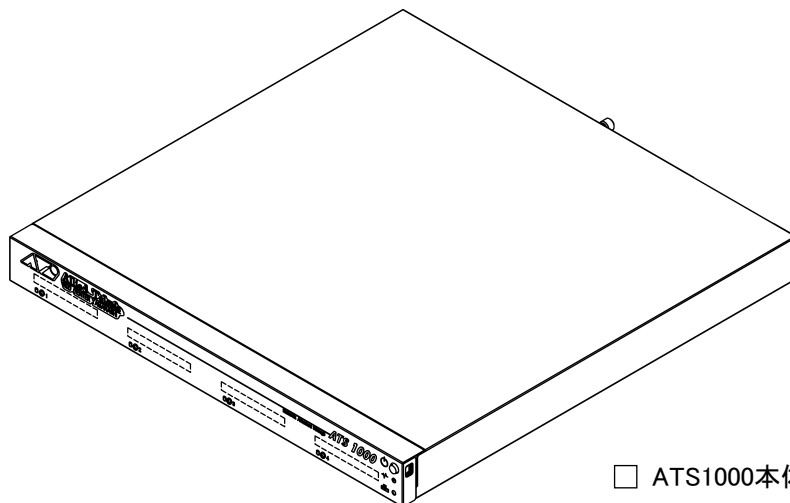
各部の名称と働き

LED表示

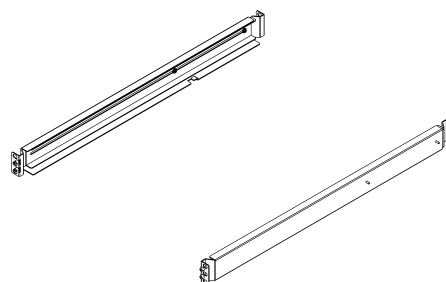
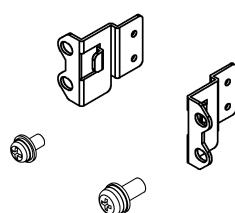
梱包内容

Packing List

最初に梱包箱の中身を確認してください



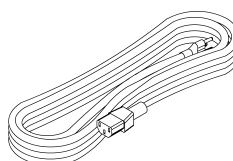
☐ ATS1000本体 1台



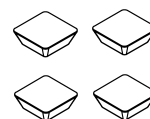
☐ 19 インチラックマウントキット 1セット (ブラケット 2個・ブラケットネジ 2個・レール 2個)



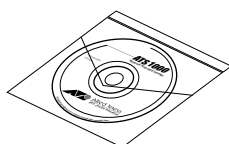
☐ インストレーションマニュアル 1本



☐ 電源ケーブル 1本



☐ 卓上用ゴム 4個



☐ CD-ROM 1枚



☐ 保証書 1枚



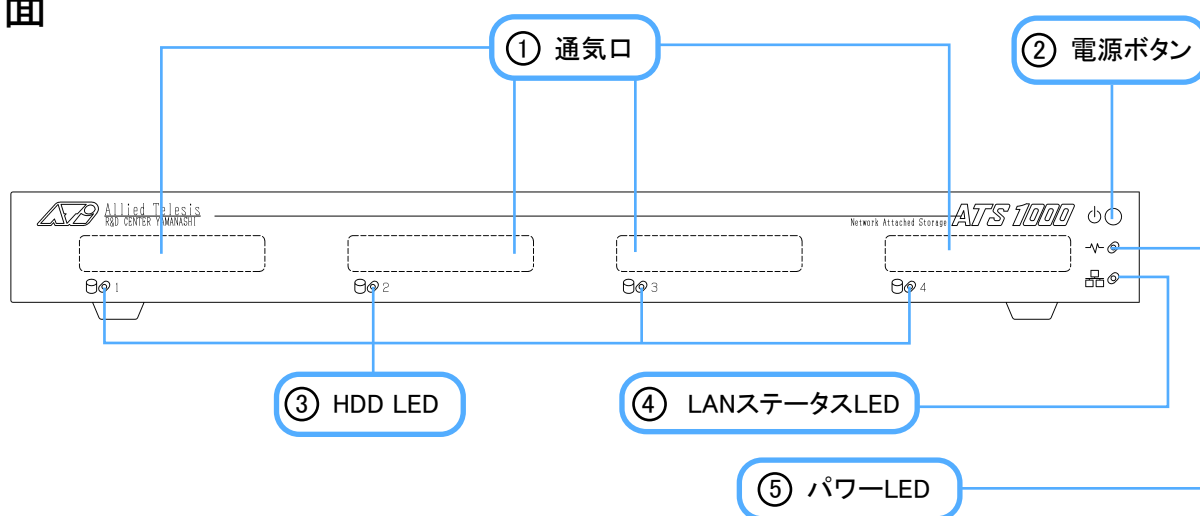
☐ 取扱説明書(本書) 1冊

本製品を移送する場合は、ご購入時と同じ梱包箱で再梱包されることが望めます。再梱包のために、本製品が納められていた梱包箱、緩衝材などは捨てずに保管してください。

各部の名称と働き

Features

前面



①通気口

換気により、本製品内部の熱を逃がすための穴です。

②電源ボタン

本製品の電源をオン/オフにするボタンです。

③HDD LED

各HDDの状態を示すLEDです。

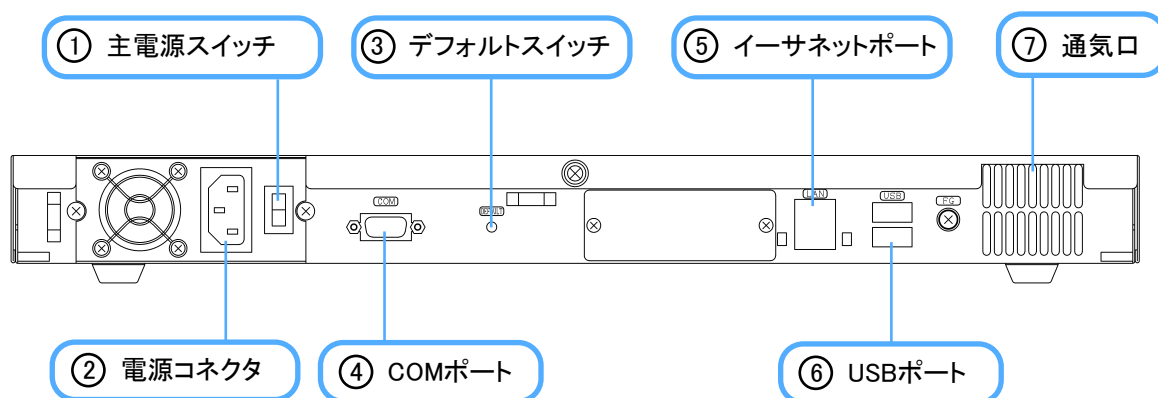
④LANステータスLED

LANの接続およびアクセスの状況を示すLEDです。

⑤パワーLED

本製品の電源およびシステムステータスを示すLEDです。

背面



①主電源スイッチ

本製品の主電源です。Iの印がある側に押すと電源が入り、Oの印がある側に押すと電源が切れます。

注意) 主電源スイッチを入れた状態(Iの印がある側に押した状態)にすると、停電などから復旧した際に本製品が起動します。装置の電源を確実に切っておきたい場合は、必ず主電源スイッチを切った状態(Oの印がある側に押した状態)にしてください。

②電源コネクタ

AC電源ケーブル(ソケット側)を接続するコネクタです。

本製品はAC100～120VまたはAC220～240Vで動作しますが、同梱のAC電源ケーブルはAC100～120V用ですのでご注意ください。

③デフォルトスイッチ

本装置を完全初期化する際に使用するスイッチです。先の細い棒などでこのスイッチを押したまま電源を投入し、そのまま30秒～40秒の間このスイッチを押したままにすると、本製品が出荷時の状態にリセットされます。

注意) 初期化が完了するまでに約3時間を要します。

④COMポート

保守に用いられるシリアルポートです。

⑤イーサネットポート

UTPケーブルを接続するためのコネクタです。

このポートは10BASE-T、100BASE-TX、1000BASE-Tでの通信をサポートしています。

通信モードはオートネゴシエーションにより、自動的に設定されます。

⑥USBポート

プリンタやUPS(無停電電源装置)を接続するためのコネクタです。

⑦通気口

換気により、本製品内部の熱を逃がすための穴です。

LED表示

LED Indications

LED	色	状態	表示内容
パワー	緑	点灯	正常稼動しています。
		点滅	システムからの通知が発生しています。 (起動直後はこの状態になります)
		遅い点滅	起動処理中
LANステータス	緑	点灯	リンクが確立しています。
		消灯	リンクが確立していません。
		点滅	データを送受信しています。
HDD (各HDDの状態を示します)	緑	点灯	HDDにアクセスしています。
	橙	点灯	HDDが異常な状態です。
	—	消灯	HDDにアクセスしていません。

1

クイックインストレーションガイド (基本設定)

Chapter

1

クイックインストレーションガイド(基本設定)

以下のステップにしたがって設定するだけで、簡単に素早くネットワーク上でファイルの共有ができます。

ステップ1: ネットワークに接続して電源を入れる

ATS1000をネットワークに接続します。ATS1000の電源を入れると電源ランプ(緑)が点滅し始めるので、そのままランプが点灯するまで待ちます。ランプが点灯すればATS1000本体の準備は完了です。

Note: このときATS1000を接続したネットワーク上で既にDHCPサービスが提供されている場合、ATS1000のIPアドレスはDHCPサーバによって自動的に設定されます。DHCPサービスが提供されていない場合、装置のIPアドレスは192.168.168.168 に設定され、ATS1000自身がDHCPサーバとしてDHCPサービスを開始します。
(⇒用語: DHCP)

Note: 初めて電源を入れた場合、ランプが点灯するまでに2～3時間程度の時間がかかります。

Note: インストーラが自動的に起動しない場合は次の手順でインストーラを手動で起動してください。

1. マイ コンピュータアイコンをダブルクリックして開く。
2. CD-ROMドライブアイコンをダブルクリックする。
3. setup_JP.exeをダブルクリックする。

ステップ2: RAIDarのインストールと起動

ATS1000を接続したネットワーク上にあるWindowsクライアントにRAIDar (ATS1000検出用ソフトウェア)をインストールします。付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入すると、インストーラが自動的に起動します。インストーラの指示に従ってインストールを行ってください。インストールには約40MBの空き容量が必要になります。

Note: RAIDarをインストールするためにはWindowsがインストールされているパソコンが必要です。RAIDarをインストールするのは、ATS1000の設定や管理を行うパソコンだけでかまいません。

インストールの完了後、デスクトップのアイコンをダブルクリックしてRAIDarを起動します。RAIDarはネットワーク上のATS1000を自動的に検出します。

Note: もしRAIDar を使うWindowsクライアントが固定IPアドレスを持っている場合、そのクライアントがATS1000と同じサブネットに属しているか確認してください。

RAIDarがATS1000を検出すると図1-1のようなウィンドウが表示されます。

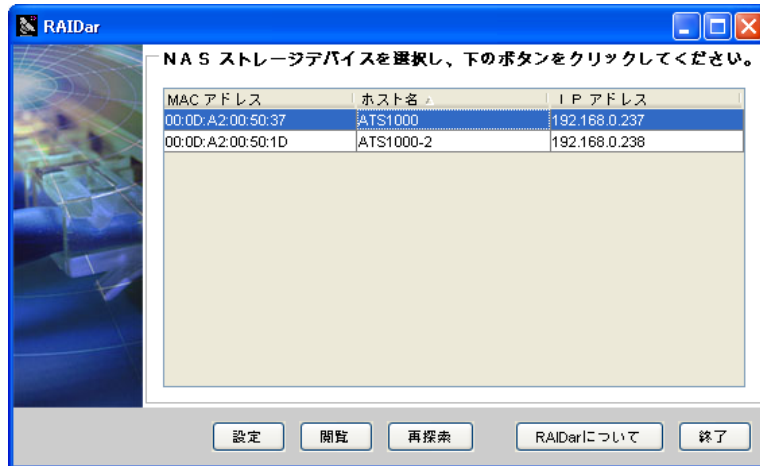


図1-1: ATS1000の検出

該当するATS1000を選んで[閲覧]ボタンをクリックすると新たにウィンドウが開き、backup という名前の共有フォルダが表示されます(図1-2)。この共有フォルダは特に設定をしなくてもすぐに使うことができます。



図1-2: 共有フォルダ(backup)

ステップ3: 基本設定ウィザードの起動

RAIDarの検出画面(図1-1)で[設定]ボタンをクリックするとログイン画面が表示されます(図1-4)。管理者用のログイン名とパスワードを入力した後[OK]ボタンをクリックしてログインします。管理者用のログイン名は **admin** 初期パスワードは **infrant1** です。

Note: セキュリティの警告ウィンドウについて

RAIDarの検出画面(図1-1)で「設定」ボタンをクリックした後、セキュリティの警告ウィンドウ(図1-3)が表示されることがありますが、「はい」ボタンをクリックして続行してください。

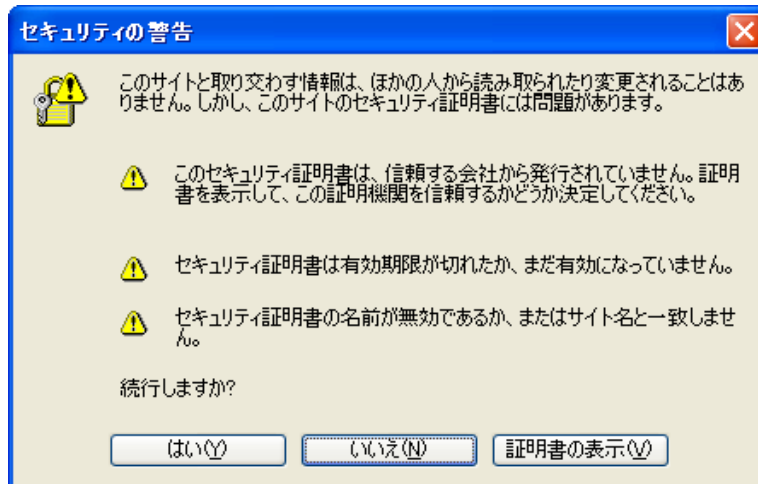


図1-3: セキュリティの警告ウィンドウ

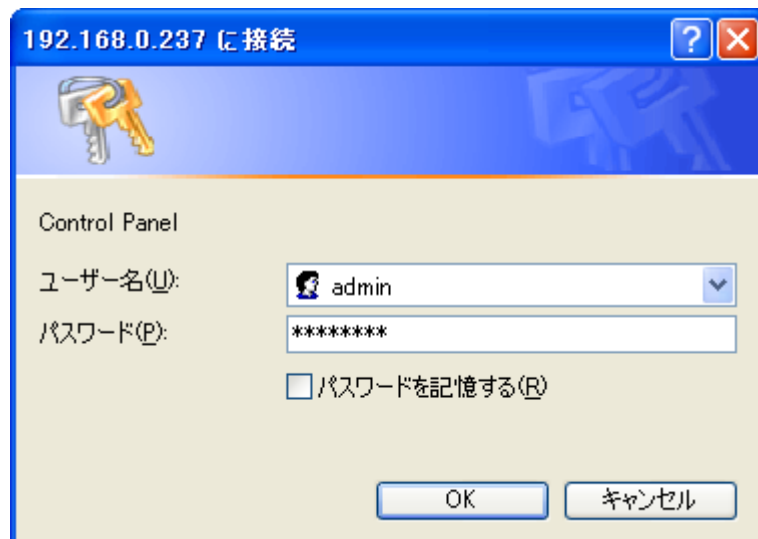


図1-4: ログイン画面

Note: ログイン画面(図1-4)で[OK]ボタンをクリックした後、ブラウザからの確認ウィンドウ(図1-5)が表示されますが、[はい]ボタンをクリックして続行してください。

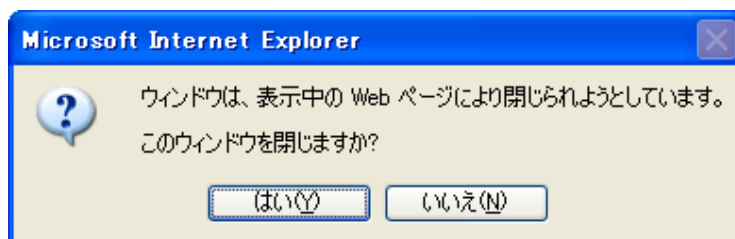


図1-5: 確認ウィンドウ

Note: RAIDarの検出画面(図1-1)で[設定]ボタンをクリックすると、基本設定が完了するまでは基本設定ウィザード初期画面(図1-6)が表示されます。詳細設定(⇒Chapter2)を行う場合は画面左下の[詳細設定]ボタンをクリックしてください。

ログインに成功すると基本設定ウィザードが起動して図1-6のような初期画面が表示されます。

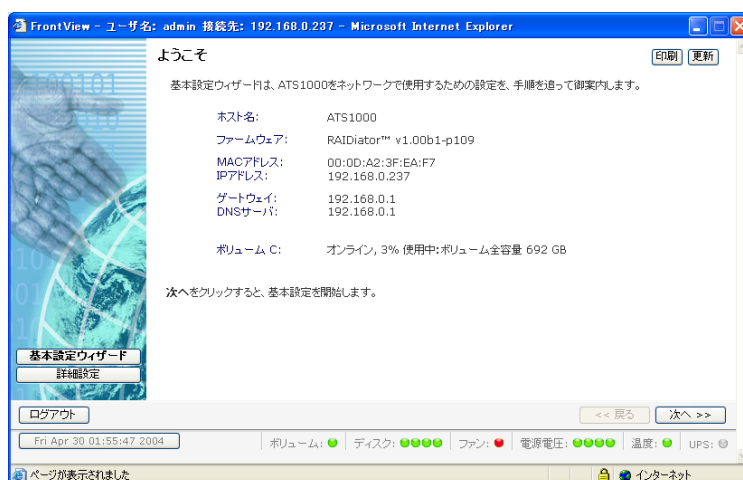


図1-6: 基本設定ウィザード初期画面

基本設定ウィザードのオプションは、標準的な環境を想定してあらかじめ初期設定されていますので、ATS1000を使用する環境に固有の情報を設定するだけで良いでしょう。[次へ >>]ボタンをクリックして基本設定を開始します。

ステップ4: システムクロックの設定

Note: システムクロックはファイルのタイムスタンプ、スナップショット(後述)のスケジュール、ログなどに影響します。

クロック設定では時刻と地域の設定を行います。ファイルのメンテナンス等が適切に行われるように正しい日時を入力してください(図1-7)。

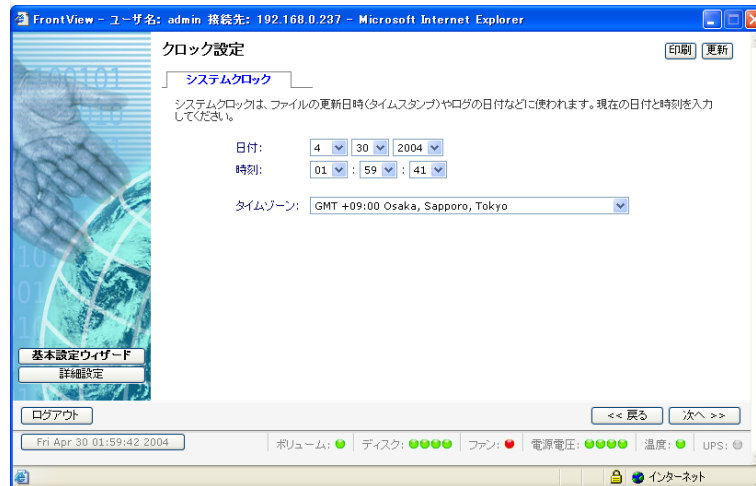


図1-7: システムクロックの設定

[次へ >>]ボタンをクリックしてネットワークの設定に移ります。

Note: ナビゲーションバーとステータスバー、コマンドバーについて

ナビゲーションバー

[次へ >>]ボタンをクリックすると、ウィンドウに現在示されている設定内容がシステムに反映されます。このときウィンドウ内に複数のタブ画面がある場合は各タブ画面のその時点での設定内容が反映されます。[<< 戻る]ボタンをクリックすると、前の設定画面に戻ります。[ログアウト]ボタンを押すと設定を終了します。

ステータスバー

ATS1000本体の内部状態が表示されます。

コマンドバー

ここにあるボタンをクリックすることで、ウィンドウ内容の印刷、画面の再描画、電子メールの送信、ヘルプの表示などを実行できます。



図1-8: ナビゲーションバー、ステータスバー、コマンドバー

ステップ5: ネットワークの設定

次の画面ではネットワークのオプションを設定します。ATS1000を接続したネットワーク上で既にDHCPサービスが提供されている場合、ネットワーク情報やDNSの設定は初期設定のままでよいでしょう。

ネットワーク情報の設定では、ATS1000のホスト名を**ホスト名**フィールドに入力します(図1-9)。



図1-9: ネットワーク情報設定画面

Note: 固定IPアドレスを使う場合、IPアドレスの値を変更すると一旦ブラウザの接続が失われます。その場合は新しく設定したIPアドレスをブラウザで指定(**https://**を使って指定)するか、RAIDar の画面から[再探索]ボタンをクリックして再接続してください。

[次へ >>]ボタンをクリックしてDNSの設定に移ります。

DHCPサービスが提供されている場合、DNSサーバの設定をする必要はありません。DNSサーバを使用する場合は、**ドメインネームサーバ**フィールドにDNSサーバのIPアドレスを、**DNSドメイン名**フィールドにATS1000が所属するドメインの名前を指定してください(図1-10)。

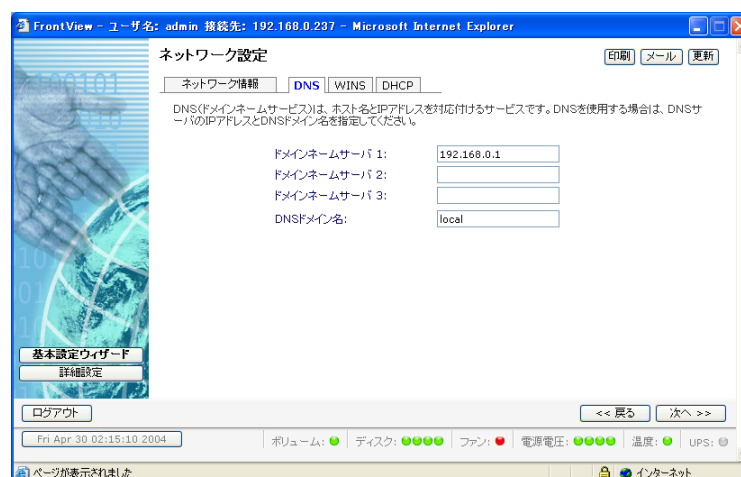


図1-10: DNS設定画面

[次へ >>]ボタンをクリックしてWINSの設定に移ります。

WINSの設定はオプションになります。別のサブネットにあるWindowsクライアントからATS1000にアクセスする場合はWINSサーバのIPアドレスを指定してください(図1-11)。



図1-11: WINS設定画面

[次へ >>]ボタンをクリックしてDHCPサーバの設定に移ります。

ATS1000本体をDHCPサーバとして使う場合は、**DHCP**タブで設定を行います。このオプションはDHCPサービスが提供されていないネットワーク上で、クライアントのネットワーク設定を簡単に行いたい場合に使用します(図1-12)。

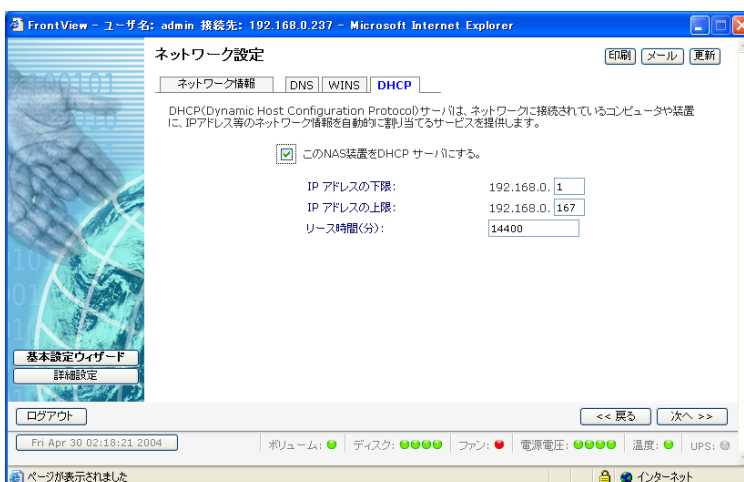


図1-12: DHCPサーバ設定画面

Note: DHCPサーバ機能について

[次へ >>]ボタンをクリックして、セキュリティの設定に移ります。

DHCPのオプションはDHCPサービスによるIPアドレスがNAS装置に設定されていない場合にのみ利用可能です。既にDHCPサービスが提供されているネットワークでこのオプションを有効にすると既存のDHCPサーバと干渉を起こします。

このオプションを使ってNAS装置をDHCPサーバにする場合は、ネットワーク情報タブおよびDNSタブで固定IPアドレスが設定されている(ネットワーク情報タブ(図1-9)で**DHCPサーバからの情報を使用するが選択されていない**)事を確認してください。

ステップ6: セキュリティオプションの選択

ATS1000を使用するネットワーク環境に応じたセキュリティオプションを選びます(図1-13)。

認証を必要としない(初期設定)

家庭や小規模オフィス向けの設定です。ネットワークを使う全ての人が共有データの置き場所としてATS1000を使う場合に選択します。このオプションでは、ユーザは全てのデータの読み取り、書き込み、変更、削除が出来ます。

認証(ATS1000内での認証)を行う

小規模オフィスやワークグループ環境に適した設定です。このオプションでは、管理者が特定のユーザやグループに対してアクセス制限を行うことが出来ます。例えば、会社の会計データのように特定のメンバーにしか開示したくないデータがある時にはこのオプションを使います。このオプションを利用する場合は、管理者がユーザのアカウントをATS1000上で作成し管理する必要があります。

ドメインコントローラによる認証を行う

ドメインコントローラで集中管理されている大規模ネットワーク環境に適しています。このオプションでは、認証をドメインコントローラが行うので、ATS1000側での認証管理は必要ありません。

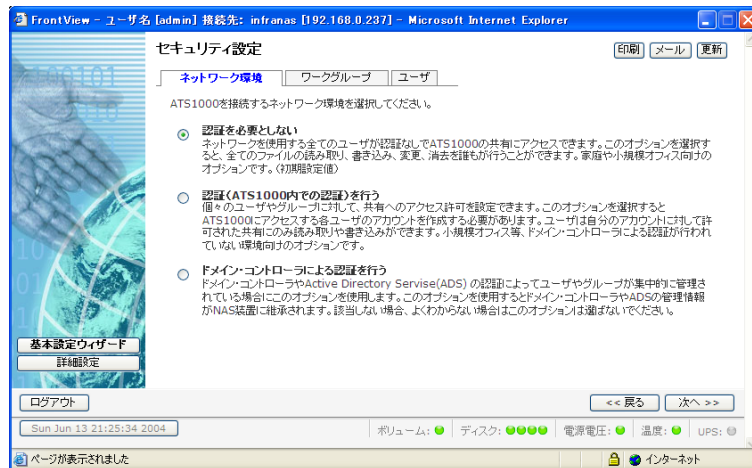


図1-13: セキュリティオプションの選択

認証を必要としないオプション、または認証(ATS1000内での認証)を行うオプションを選んだ場合、ワークグループ名の設定が必要となります。
使用するワークグループ名を入力してください(図1-14)。

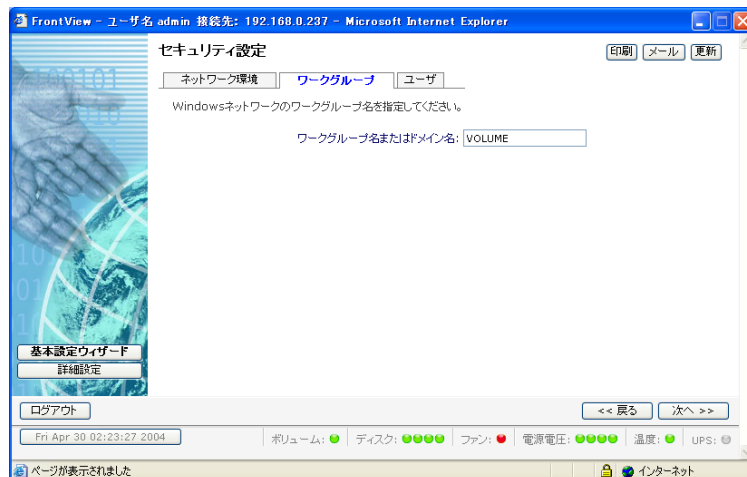


図1-14: ワークグループの設定

認証(ATS1000内での認証)を行うオプションを選んだ場合、ユーザタブの画面(図1-15)でユーザアカウントやグループアカウントの確認や追加、変更ができます。

グループアカウントの作成

グループアカウントを作成すると、同じグループ名を割り当てた複数のユーザをまとめて管理することができます。グループアカウントを特に作成しない場合は初期設定の **users** というグループアカウントが割り当てられます。

グループアカウントを作成する場合はプルダウンメニューから**グループの管理**を選びグループアカウントの情報を入力します(図1-15)。

グループ名フィールド

グループ名を入力してください。使用できる文字は半角英数字(名前の先頭は数字不可)と半角ハイフン「-」および半角アンダーバー「_」です。

GIDフィールド

NFSを使用する場合はGID(グループID)を設定します。一般にGIDは他のサーバにあるグループアカウントのGIDと合わせます。NFSを使用しない場合はGIDを設定する必要はありません。(⇒用語: NFS)

使用許可容量フィールド

グループに使用を許可するディスク容量を設定します。容量が0の場合、使用許可容量は無制限になります。

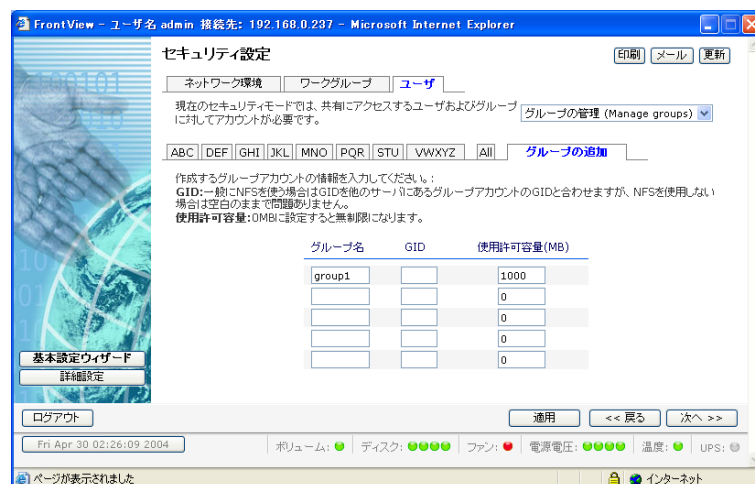


図1-15: グループアカウントの追加

ユーザアカウントの作成

プルダウンメニューから**ユーザの管理**を選びユーザアカウントを作成します(図1-16)。

ユーザ名フィールド

ユーザ名を入力してください。使用できる文字は半角英数字(名前の先頭は数字不可)と半角ハイフン「-」および半角アンダーバー「_」です。

メールフィールド

ユーザのEメールアドレスを入力します。このアドレスは、ユーザのディスク使用量が制限近くに達した場合の警告メッセージなど、システムからのメッセージの送付先になります。

UIDフィールド

NFSを使用する場合はUIDフィールドにUID(ユーザID)を設定します。一般にUIDは他のサーバにあるユーザアカウントのUIDと合わせます。NFSを使用しない場合はUIDを設定する必要はありません。

グループ名メニュー

ユーザが所属するグループ名を選択してください。

パスワードフィールド

ユーザが共有へアクセスする際に入力するパスワードを設定します。

使用許可容量フィールド

ユーザに使用を許可するディスク容量を設定します。容量が0の場合、使用許可容量は無制限になります。使用許可容量を無制限以外に設定する場合は、**メールフィールド**の設定を必ず行ってください。



図1-16: ユーザアカウントの追加

プルダウンメニューの**アカウント初期値の設定**を選ぶと、新しくユーザアカウントやグループアカウントを作成する場合のディスク使用許可容量の初期値を設定する事が出来ます。またシステムが警告メッセージを送付する基準となるディスク使用率(ディスク使用許可容量に対する使用率)を設定できます(図1-17)。

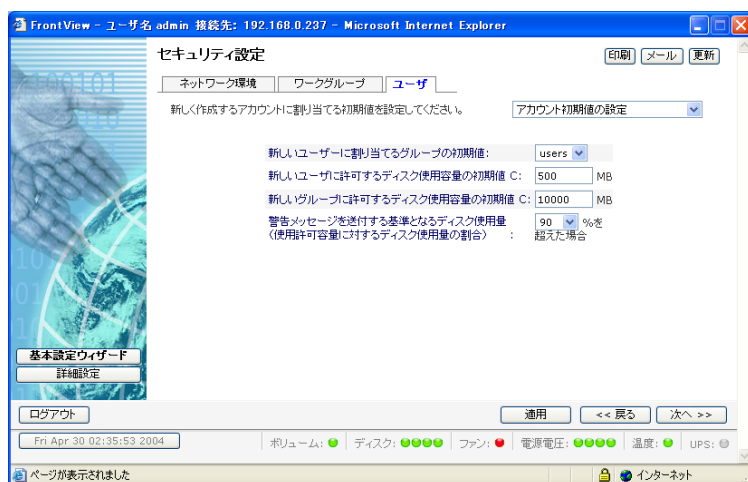


図1-17: アカウント初期値の設定

ドメインコントローラによる認証を行う オプションを選んだ場合は、**ドメインに参加**タブでドメイン名とドメイン管理者のログイン名及びパスワードを入力します。[適用]ボタンをクリックするとATS1000がそのドメインに加わります(図1-18)。

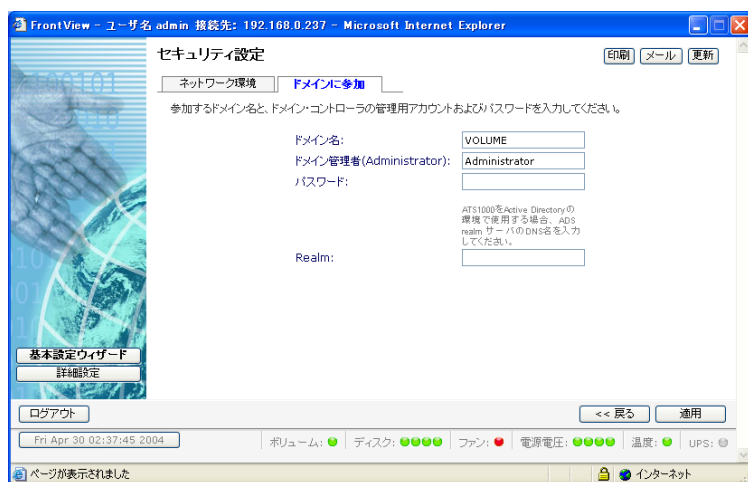


図1-18: ドメイン情報設定画面

設定が完了するとナビゲーションバーに [次へ >>] ボタンが現れます。[次へ >>] ボタンをクリックして共有の設定に移ります。

ステップ7: 共有の設定

共有はATS1000上の共有フォルダとして表示され、様々な種類のファイルアクセスプロトコルを使うクライアントからアクセス出来ます。

ファイル共有プロトコルタブで、使用するファイルアクセスプロトコルを選択します(図1-19)。CIFSはWindows、NFSはLinuxおよびUNIX、AFPはMac OSで使われるプロトコルです。HTTPを選択すると汎用のWebブラウザを用いて、FTPを選択すると匿名(anonymous)FTPクライアントを用いてファイルの閲覧やダウンロードが出来ます。

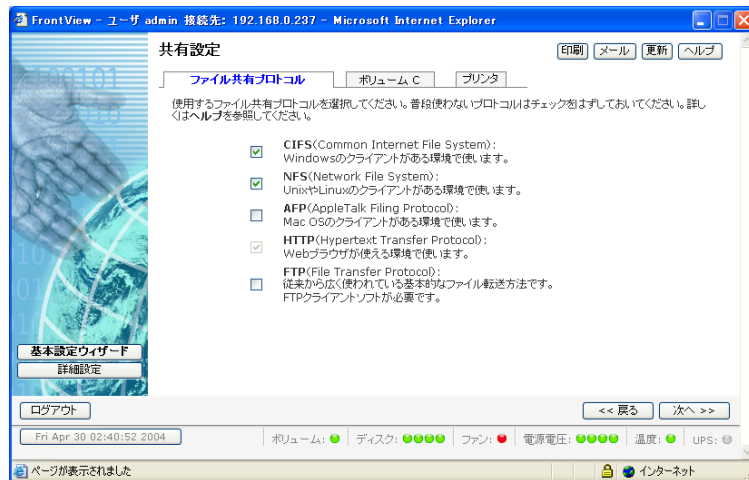


図1-19: プロトコルの選択

Note: ファイル共有プロトコルについて

CIFS(Common Internet File System) は、Windowsユーザがネットワークでファイルを共有する場合に使う標準的なプロトコルです。Mac OS X もファイル共有にCIFSを使うことができます。CIFSを使用する場合にはこのオプションを選択してください。(標準的なWindowsネットワーク環境ではこのオプションを選択してください)

NFS(Network File System)はLinuxまたはUNIXで使われる共有方法で、ネットワーク上の別の場所にあるファイルシステムをあたかもローカルファイルシステムの一部であるかの様に扱えます。ネットワーク上のLinuxまたはUNIXシステムでNFSを使った共有を行う場合はこのオプションを選択してください。

AFP(AppleTalk Filing Protocol)は、Mac OSユーザがネットワークでファイルを共有する場合に使う標準的なプロトコルです。ATS1000にMac OSのユーザがアクセスする場合はこのオプションを選択します。

HTTP(HyperText Transfer Protocol)は、Webブラウザを使ってWebサーバ上のファイル(Webページなど)にアクセスするためのプロトコルです。ATS1000では、閲覧が許可されている共有に読み取り専用でのみアクセス可能です。匿名HTTPアクセスを許可するかどうかは共有ごとに設定できます。HTTPでのアクセスは公開してよい共有に対してのみ許可します。

FTP(File Transfer Protocol)は、ネットワーク上の離れた場所にあるシステムに対してファイルのアップロード/ダウンロードを行うためのプロトコルで、多くのOSがサポートしています。共有に対して匿名FTPでのアクセスを許可する場合はこのオプションを選択してください。FTPでのアクセスは公開してよい共有に対してのみ許可します。

[次へ >>]ボタンをクリックすると、ボリュームCの共有リストが表示されます。ボリュームCはATS1000Iにあらかじめ作成されている初期ボリュームです。**ボリュームC**タブには現在のRAIDの設定やディスクの状態、ディスクの使用量が表示されます(図1-20)。

Note: ボリュームは初回起動時にRAIDレベル5で初期設定されます。

共有リストタブには、現在ボリューム上にある共有のリストが表示されます。たとえばbackupは、あらかじめ作成されている共有です。共有リストの右側にあるドキュメントアイコンはその共有にアクセス可能なプロトコルの種類を示しています(図1-20)。



図1-20: 共有リスト

このドキュメントアイコンをクリックすると、特定のユーザやグループ、ホストに対して、共有上のデータの読み込みや共有への書き込みを制限することができます(図1-21)。制限を掛けたいユーザ名/グループ名/ホスト名を入力し[適用]ボタンをクリックすると設定が反映されます。この時、制限する対象が複数ある場合はそれぞれの名前の間をカンマ「,」で区切って入力します。**標準のアクセス許可**の値はユーザやグループに設定されるアクセス許可の初期設定で、他で特に指定しない場合はこの設定が使われます。

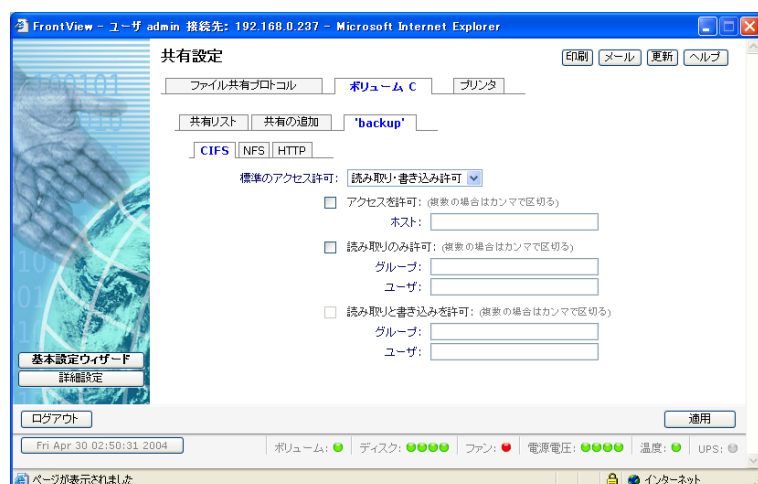


図1-21: アクセス許可設定

共有を追加する場合は**共有の追加**タブで行います。**共有名**フィールドに新しい共有名を、必要ならば**説明**フィールドにその共有についての説明を入力して、[適用]ボタンをクリックしてください(図1-22)。



図1-22: 共有の追加

認証を必要としないオプションを選択している場合は、共有ごとにパスワードを設定することができます。また、共有ごとの使用許可容量の設定もできます(図1-23)。

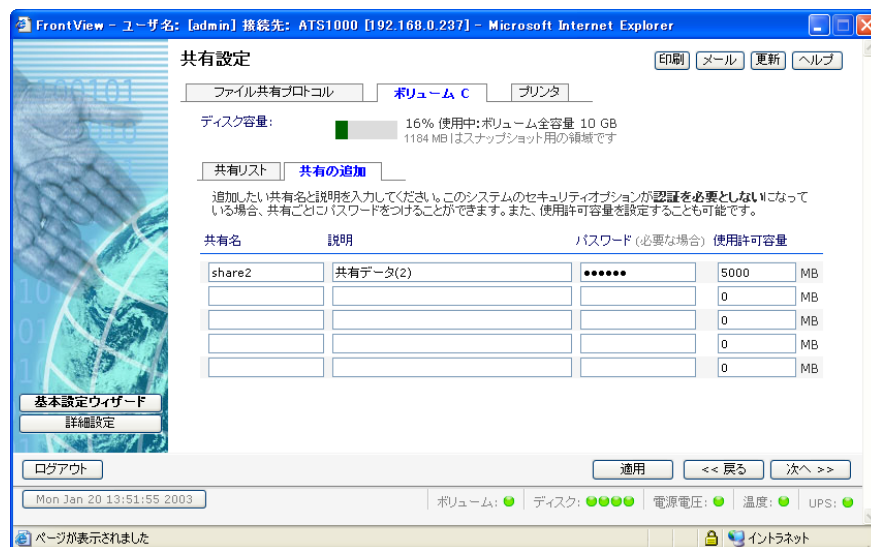


図1-23: 共有の追加（**認証を必要としない**オプション選択時）

ATS1000はプリントサーバとして、本体のUSBポートに接続したプリンタをWindowsクライアントから使用することができます。プリンタの共有名はメーカーのモデル名から自動的に設定され、**プリンタ**タブに反映されます(図1-24)。プリンタドライバの設定はお使いのプリンタのマニュアルに従ってください。



図1-24: プリンタが接続されている場合

[次へ >>]ボタンをクリックしてシステムの設定に移ります。

ステップ8: システムの設定

システムメッセージタブでは、システムからの警告メッセージを受け取るEメールアドレスを設定します(図1-25)。**システムメッセージ受信アドレス**フィールドにメッセージを受け取るユーザ(管理者)のEメールアドレスを入力してください。この設定はバックグラウンド処理で発生したトラブルや、致命的なシステムエラーを管理者が知るために必要ですので必ず行ってください。

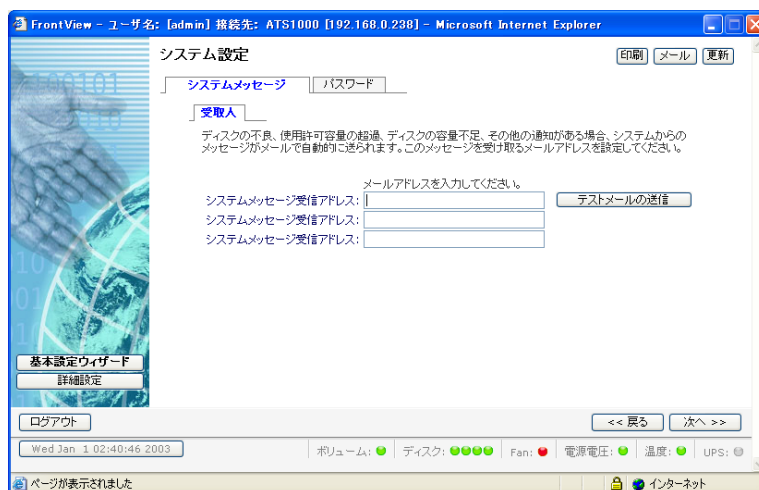


図1-25: システムメッセージ受信アドレスの設定

システムからの警告メッセージを受け取るためには、ネットワークのゲートウェイとDNSが正しく設定されていることが必要です。[テストメールの送信]ボタンをクリックして、設定したEメールアドレスにシステムからの警告メッセージが届くことを確認してください。

パスワードタブでは、管理者(admin)に割当てられた初期パスワードを変更できます(図1-26)。セキュリティ上、初期パスワードは変更しておくことをお勧めします。変更した管理者パスワードは絶対に忘れないようにしてください。

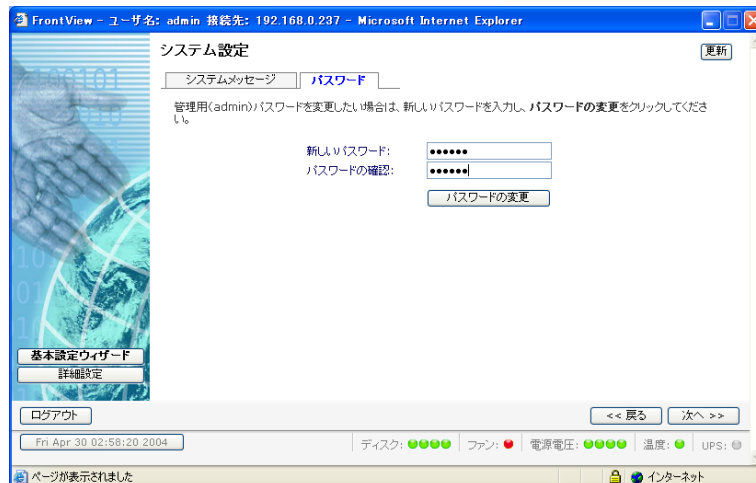


図1-26: パスワードの変更

ステップ9: 設定の完了

以上でATS1000を使ってファイル共有を開始する準備が整いました(図1-27)。設定を終了する場合は[ログアウト]ボタンをクリックしてください。

より詳細な設定を行う場合には[次へ >>]ボタンをクリックして詳細設定に移ります。詳細設定については次章(⇒Chapter2: 詳細設定)をお読みください。



図1-27: 基本設定完了画面

設定した共有にアクセスしてみましょう。以下では Windows、Mac OS 9/X、Linux/UNIX、の各クライアントからのアクセス方法と、Webブラウザ、FTPクライアントを使ったアクセス方法の例を示します。

Windows

RAIDarからのアクセス

RAIDar検出画面(図1-1)で検出されたATS1000のうち、該当するものを選んで[閲覧]ボタンをクリックすると新たにエクスプローラが起動します。ウィンドウ内のアイコンをダブルクリックして共有にアクセスしてください。

エクスプローラからのアクセス

デスクトップ左下のスタートをクリックしてメニューを開き、マイコンピュータをクリックすると、エクスプローラ (Explorer) が起動します。エクスプローラのアドレスフィールドに**¥¥ATS1000のホスト名¥共有名**と入力します。[移動]ボタンをクリックするかキーボードの[Enter]キーを押すと共有の内容が表示されます(図1-28)。

(例) ホスト名: **nas-00-50-23** 、共有名: **backup** の場合

¥¥nas-00-50-23¥backup

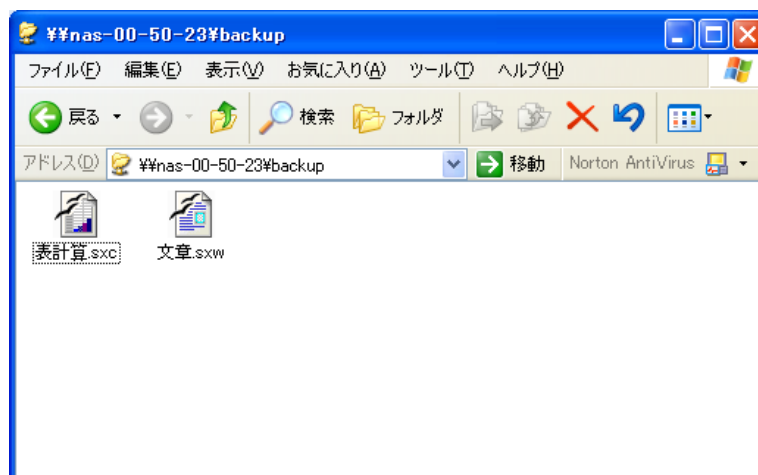


図1-28: エクスプローラからのアクセス

Mac OS 9/X

Finderの[移動]メニューから、[サーバへ接続]を選びます。リストからATS1000のホスト名を選ぶか、**アドレスフィールド**にATS1000のアドレスを入力します(図1-29)。

(例) IPアドレス: **192.168.0.237** 、共有名: **backup** の場合

afp://192.168.0.237

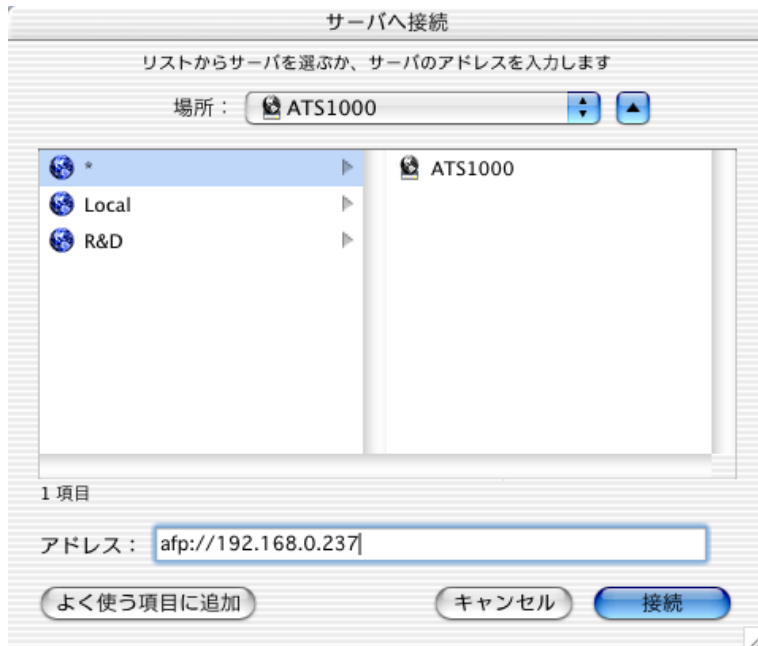


図1-29: サーバへ接続画面

[接続]ボタンをクリックすると、ログオン画面が表示されます。**名前**フィールドに**接続する共有名**を、**パスワード**フィールドにその共有に設定したパスワードを入力します(図1-30)。

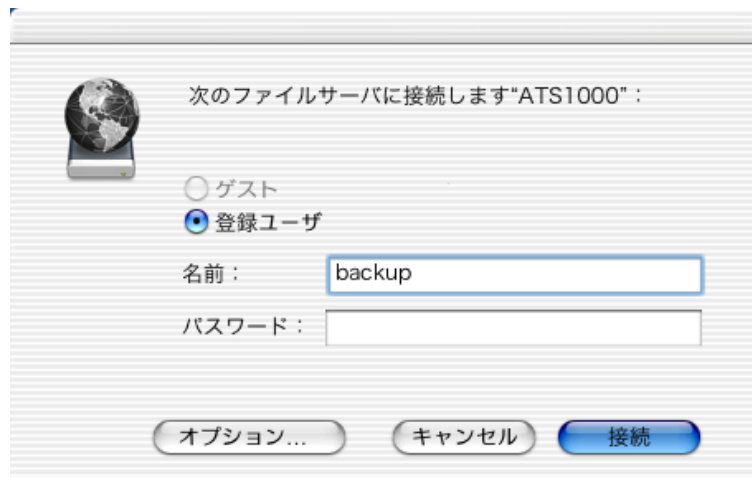


図1-30: ログオン画面

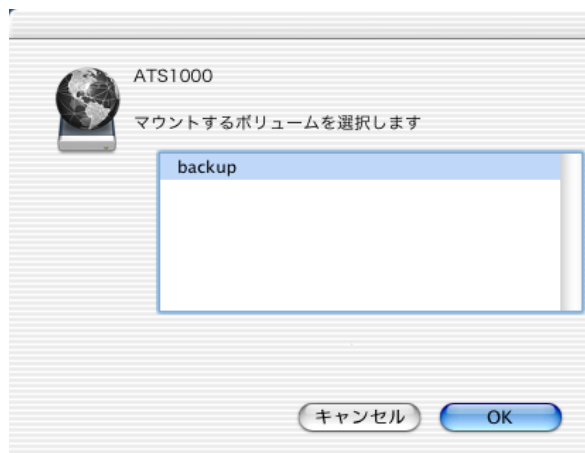


図1-31: 共有のリスト

[接続]ボタンをクリックしてログオンに成功すると、ATS1000にある共有のリストが表示されます。接続したい共有を選びクリックし、[OK]ボタンをクリックします(図1-31)。

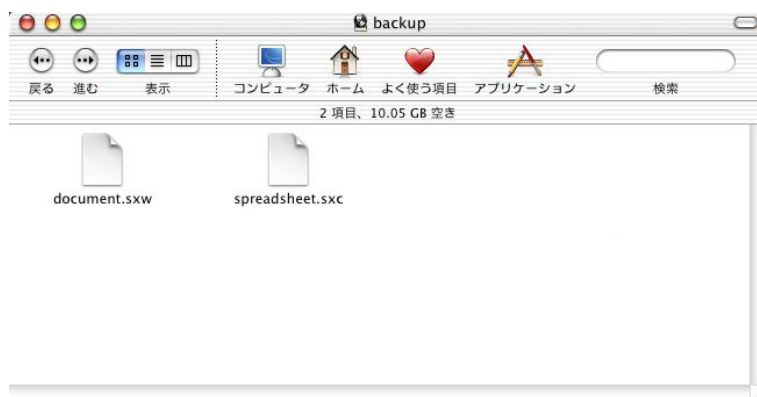


図1-32: Finderから共有へのアクセス

Linux/UNIX

LinuxやUNIXからアクセスする場合は、NFSを介して共有をマウントする必要があります。mount コマンドを使い、**mount ATS1000のホスト名:/ATS1000の共有名 クライアント側のマウント位置**の様にターミナルから入力します(図1-33)。

(例) IPアドレス: **192.168.0.237** 、共有名: **backup** 、
マウント位置: **/mnt/nas** の場合
mount -t nfs 192.168.0.237:/backup /mnt/nas

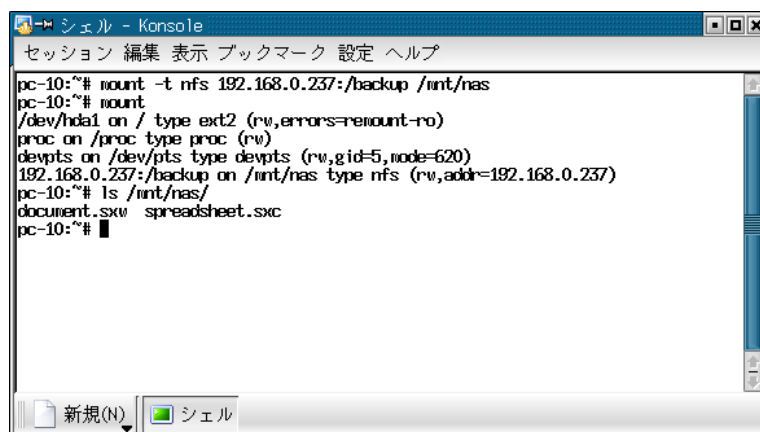


図1-33: NFSを介した共有へのアクセス

Webブラウザ

Webブラウザを使用できる環境であれば、Webブラウザのアドレス欄に **https://IPアドレス/共有名** を入力した後、キーボードの[Enter]キーを押すことで共有にアクセスできます(図1-34)。

(例) IPアドレス: **192.168.0.237** 、共有名: **backup** の場合

https://192.168.0.237/backup

Note: アドレスの先頭部分には、**http://** ではなく、**https://** を使用してください。

Note: 日本語のファイル名が正常に表示されない場合は、ブラウザメニューの[表示]→[エンコード]からUnicode (UTF-8)を選択してください。

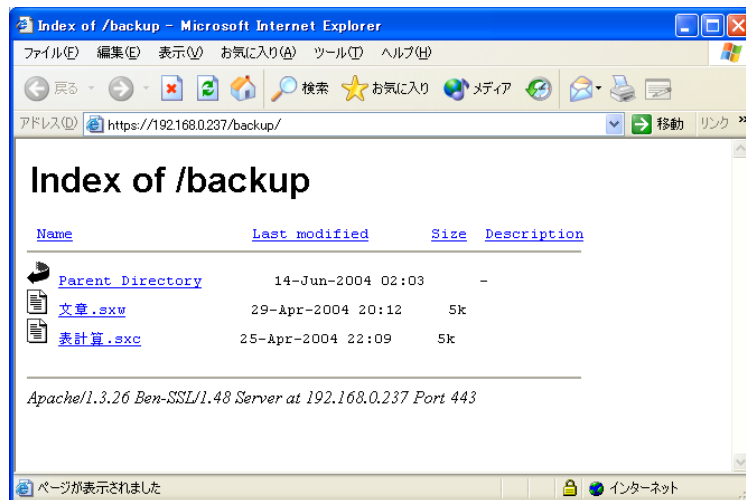


図1-34: Webブラウザからのアクセス

FTPクライアント

FTPクライアントから共有にアクセスする場合、**anonymous**アカウントでログインします。

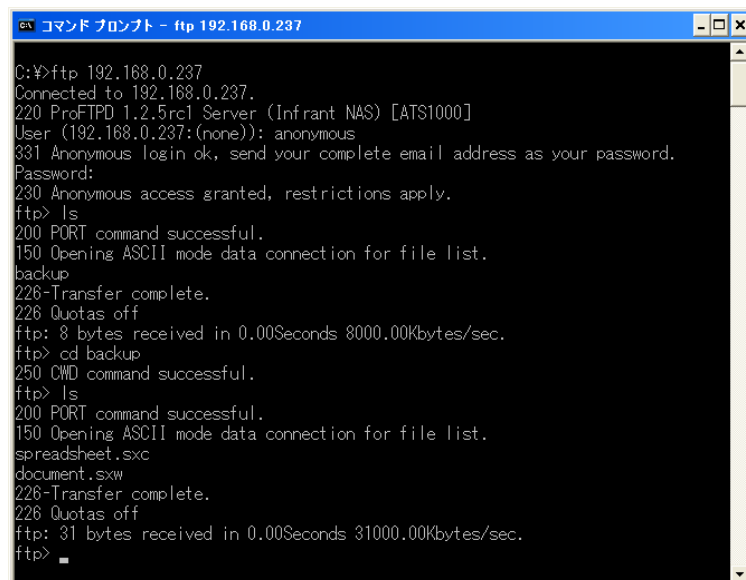


図1-35: FTPクライアントからのアクセス

詳細設定

Chapter

2

詳細設定

詳細設定では、基本設定ウィザードで行った設定の変更や、基本設定ウィザードでは扱わなかった詳細な設定を行うことができます。

Note: RAIDarの検出画面(⇒Chapter1: 図1-1)で[設定]ボタンをクリックすると、基本設定が完了するまでは基本設定ウィザード初期画面(⇒Chapter1: 図1-6)が表示されます。詳細設定を行う場合は基本設定ウィザード画面左下の[詳細設定]ボタンをクリックしてください。

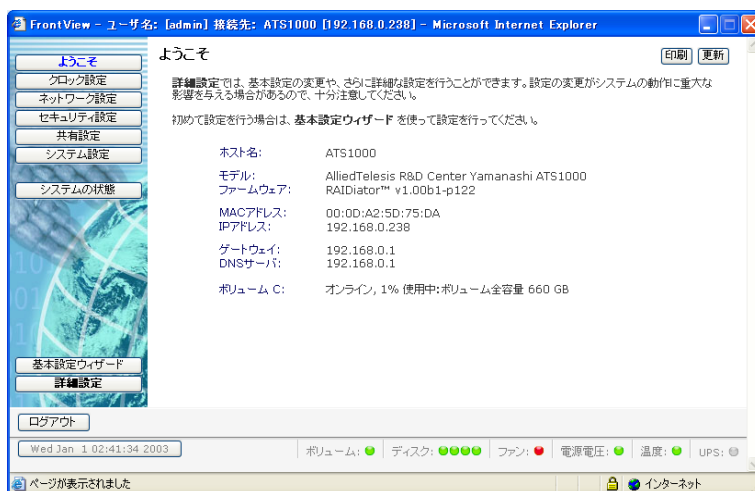


図2-1: 詳細設定画面

画面左側のメニューボタンをクリックすると、それぞれの設定ページにアクセスできます(図2-1)。

NTPの設定(クロック設定)

NTP(Network Time Protocol)の設定は**クロック設定**ページ(図2-2)で行います。NTPサーバを使うとATS1000のシステムクロックを指定したNTPサーバの時刻と同期させることができます。

NTPサーバを使う場合は、**NTPサーバを使用する**にチェックを付け、**NTPサーバ**フィールドに使用するNTPサーバのホスト名またはIPアドレスを入力してください。

(⇒用語: NTP)

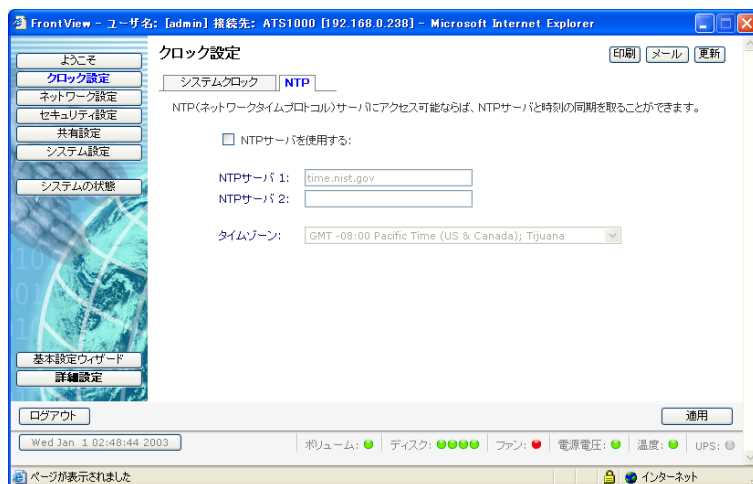


図2-2: NTPの設定

スナップショット(共有設定)

スナップショットの設定は**共有設定**ページで行います。スナップショットとはある瞬間におけるボリュームのイメージを保存する機能で、NAS装置をオンラインにしたままバックアップを取るために欠かせない機能です。

通常のバックアップでは、バックアップを行っている間にデータが変更されないようにNAS装置を一度ネットワークから切り離す(オフラインにする)必要があります(オフラインバックアップ)。このためバックアップ作業中にはNAS装置を使うことができません。ディスクが大容量になればそれだけバックアップに多くの時間がかかり、NAS装置が使えない時間が長くなります。こうした問題を避けるため、大容量ストレージではスナップショットを用いたオンラインバックアップがよく使われます。

スナップショットの取得は曜日、間隔、時間帯を指定してスケジュールできます。また、[スナップショットを取る]ボタンをクリックすると任意の時間に手動でスナップショットを取ることができます(図2-3)。

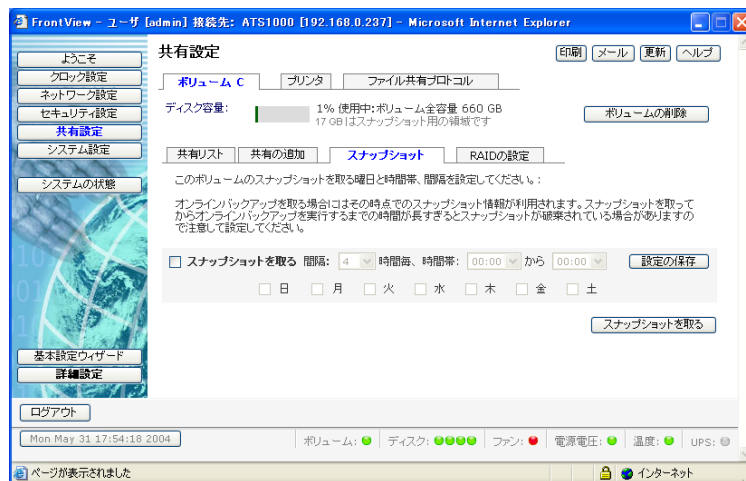


図2-3: スナップショットの設定

Note: 例えば、共有名 **backup** のスナップショットを取ると、**backup-snap** という名前のスナップショットが作成されます(図2-4)。

取得したスナップショットは通常の共有と同じように表示されます。スナップショットは読み取り専用で、書き込みはできません。スナップショットの名前は、**共有名-snap** という形式になっています(図2-4)。

2回目以降、同じ共有に対してスナップショットが取得されると同名のスナップショットに上書きされます。

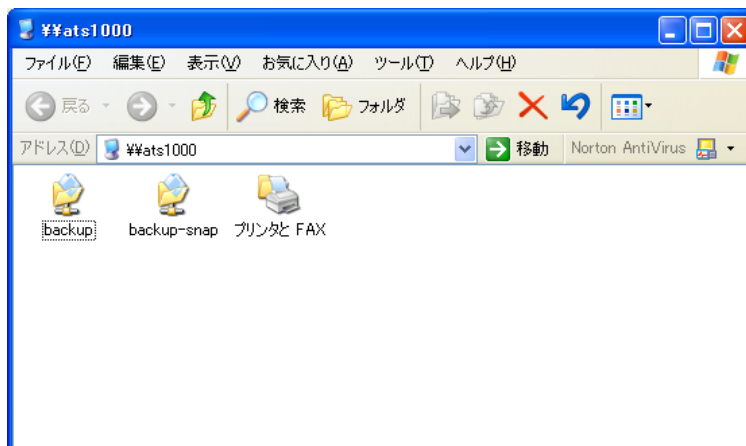


図2-4: スナップショット

ボリュームの追加(共有設定)

ボリュームCの設定を変更する場合、または2つ以上のボリュームに分割する場合は一度ボリュームCを削除する必要があります。**ボリュームCタブの[ボリュームの削除]ボタンをクリックしてボリュームCを削除してください(図2-3)。****ボリュームを削除するとそのボリューム上に存在するすべての共有、ファイル、スナップショットが削除されます。**必要なデータはあらかじめバックアップを取っておくことをお勧めします。

1. ハードディスクの選択・

ボリュームの追加タブには使用できるハードディスクのリストが表示されます。新しいボリュームを構成するディスクを選んでください(図2-5)。リストの先頭にあるチェックボックスにチェックを付けるとそのハードディスクが選択されます。初期設定ではすべてのディスクが選択されています。

必要であればこの中からホットスペアディスクを選びます。ホットスペアディスクは通常は使用されず、他のハードディスクが故障するとユーザが特に操作しなくても自動的に故障したハードディスクの代わりとして動作を開始します。



図2-5: ボリュームの追加

2. RAIDレベルの選択

次に新しいボリュームに設定するRAIDレベルを選択します。RAIDレベルの設定は、**ボリュームの追加**タブ中央のプルダウンメニューで行います(図2-5)。

RAIDレベル0

ハードディスクが1台以上(ホットスペアディスクを除く)の場合は、RAIDレベル0を選択できます。RAIDレベル0は全てのハードディスクにストライピングを行うため、RAIDの中で最大の容量が確保でき、冗長データを扱わないのでパフォーマンスは最高になります。しかしながらRAIDレベル5のような冗長データを持たないため障害に弱いという欠点があります。RAIDレベル0ボリュームの使用可能容量は[RAIDを構成するハードディスクの中で最も容量の少ないハードディスクの容量]×[RAIDを構成するハードディスクの台数]になります。

RAIDレベル1

ハードディスクが2台以上(ホットスペアディスクを除く)の場合は、RAIDレベル1が選択できます。RAIDレベル1は2台以上のハードディスクで構成され、それぞれのハードディスクに同一の内容が書き込まれます(ミラーリング)。RAIDレベル1ボリュームの使用可能容量は[RAIDを構成するハードディスクの中で最も容量の少ないハードディスクの1台分]になります。

RAIDレベル5

ハードディスクが3台以上(ホットスペアディスクを除く)の場合は、RAIDレベル5が選択できます。RAIDレベル5は障害に強く、また最適なディスク使用可能容量が確保できます。RAIDレベル5はデータを3台以上のハードディスクにストライピングしながら、冗長データを各ハードディスクに分散して付加していく方式で、ハードディスクの一台が障害を受けた時は、残りのハードディスクに付加された冗長データから元のデータを復元することができます。RAIDレベル5ボリュームの使用可能容量は[RAIDを構成するハードディスクの中で最も容量の少ないハードディスクの容量]×[RAIDを構成するハードディスクの台数-1]になります。

3. スナップショットのための予備スペースの設定

次にボリューム容量のうちスナップショット用の予備スペースに割り当てる割合を選択します。予備スペースの設定は、**ボリュームの追加**タブ中央のメニューボックスで行います(図2-5)。

割合は5%~50%の間で5%刻みで設定できます。この割合は、スナップショットを取る頻度や、次にスナップショットを取得するまでの間に変更が起こる可能性があるデータの量に応じて設定します。スナップショットを使わない場合は0を設定します。

予備スペースが足りなくなると、最悪の場合スナップショットデータが破壊されます(実際のデータは破壊されません)ので、十分な領域を割り当てることをお勧めします。

4. 追加するボリューム容量の設定

ボリュームの追加タブ下部にある**追加するボリューム容量**フィールドには、現在追加可能な最大のボリューム容量が表示されています。新たに追加したいボリューム容量をこのフィールドに入力してください(図2-5)。

[適用]ボタンをクリックすると、システムを再起動するメッセージが出力されます。一般に1分ほどで再起動が完了します。実際にボリュームが使用可能になるのは再起動後2～3分後です。ボリュームの追加が完了し使用可能になると、システムからその旨のメッセージがEメールで届きます。

Note: システム設定ページの**システムメッセージ**タブ(図1-25)でシステムメッセージ受信アドレスを設定していない場合、メッセージは届きません。

システムパフォーマンスの調整

システムのパフォーマンスを微調整する必要がある場合は、**システム設定**ページの**パフォーマンス**タブで行います(図2-6)。

この設定を行うとシステムの初期設定値が変更されるので慎重に行ってください。システムの初期設定では、ATS1000がUPS(無停電電源装置)に接続されていない場合を想定しており、高いレベルの整合性を確保できるようにより安全な設定になっています。(⇒用語: UPS)

UPS等のバックアップ電源が備わっている場合で、使用するアプリケーションのためにより高いパフォーマンスが必要な場合にこのオプションを使います。

Note: UPS(無停電電源装置)の使用は、予期しない電源遮断などのトラブルの予防に大きな効果があります。

ディスクライトキャッシュを使用する

このオプションは、ハードディスクのライトキャッシュを有効にしてパフォーマンスを上げたい場合に選択します。電源が遮断された場合、ライトキャッシュ内のデータは失われますので、ライトキャッシュの内容を保護できるようにUPSを使うことをお勧めします。

RAIDレベル5ボリュームに対してジャーナリングを行わない

このオプションは、**必ずNAS装置がUPSで保護されている場合**に選択してください。このオプションを選択している時に電源遮断トラブルが起きると冗長データの整合性が取れなくなり、トラブルが起きたハードディスクを正しいデータで復旧することが出来なくなります。このオプションを選ぶとディスク書き込みのパフォーマンスが若干向上します。

ジャーナリングを行わない

このオプションは、ファイルシステムのジャーナリングを行わない場合に選択します。ファイルシステムのジャーナリングを行っている場合、電源遮断トラブルが発生した後に行われる長時間のファイルシステムチェックや修復を短時間で完了することができます。このオプションを選ぶとディスク書き込みのパフォーマンスが若干向上しますが、予期しないシステムダウンが起きるとシステムの再起動に非常に長い時間を要します。また、データが失われる危険もあります。

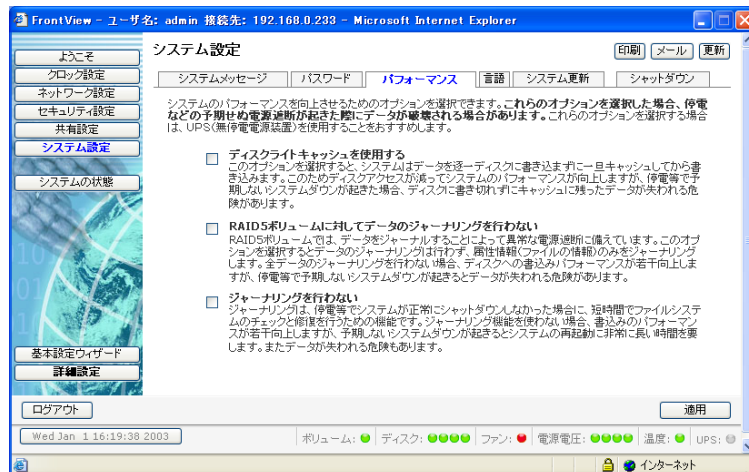


図2-6: パフォーマンスの調整

言語の設定(システム設定)

システム設定ページの言語タブでは、ATS1000で使用する標準の言語を設定します。すべてのクライアントがUnicodeをサポートしている場合は、**英語(米国)**または、**Unicode**を選択してください(図2-7)。(WindowsXP, Windows2000, Fedora Core Linux, などはUnicode をサポートします)

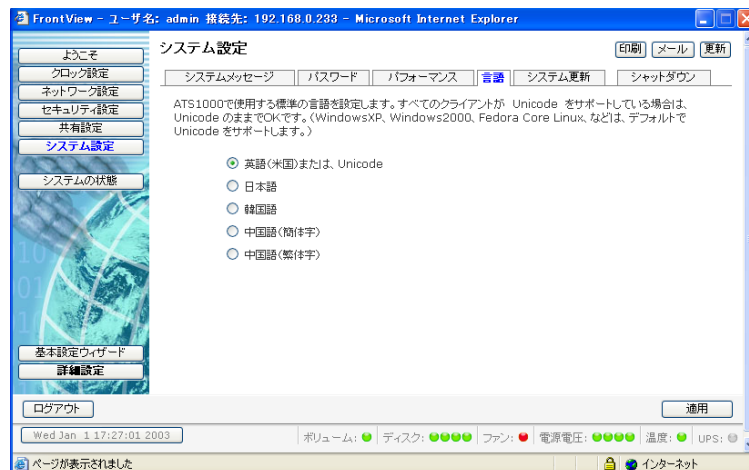


図2-7: 言語の設定

システムの更新(システム設定)

システム設定ページのシステム更新タブでは、ATS1000のシステム(オペレーティングファームウェア)を更新したり、システムの設定を工場出荷時の状態に戻すことができます。

システムの更新方法にはサーバからダウンロードする方法と、ftpサイトから入手した更新ファイルを使う方法の2つがあります。

リモートアップデート

インターネットに接続できる環境であれば、リモートからシステムの更新をするのが簡単です。リモートタブの[更新の確認]ボタンをクリックするとアップデートサーバから最新の更新情報を得ることができます(図2-8)。

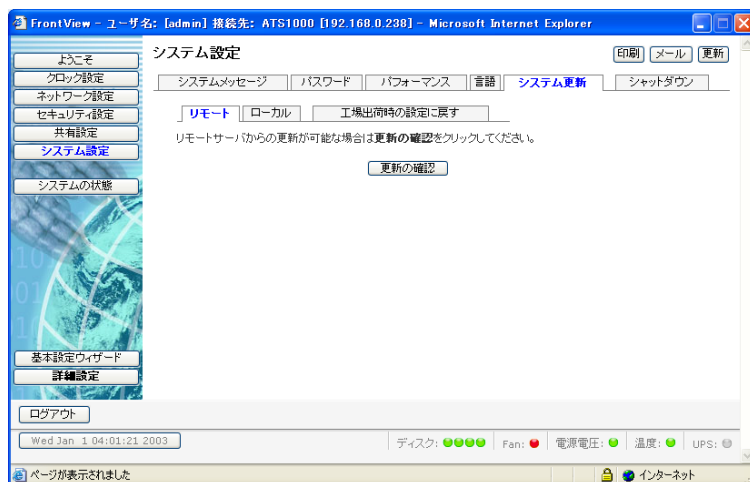


図2-8: リモートアップデート

更新を行う場合には、[システム更新]ボタンをクリックすると、アップデートイメージが自動的にATS1000にダウンロードされ、システムが更新されます(図2-9)。更新が完了するとシステムを再起動することを促すメッセージが表示されますので、システムを再起動してください。この更新作業はファームウェアイメージの更新だけを行うものでボリュームのデータは変更されませんが、念のために重要なデータはバックアップを取っておくことをお勧めします。

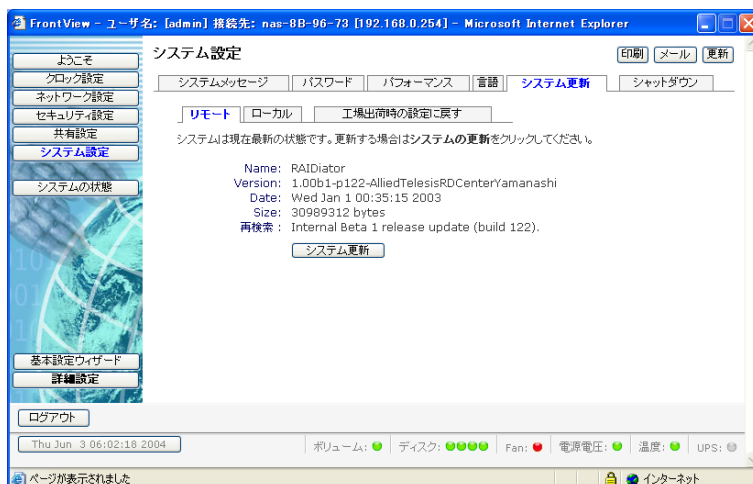


図2-9: システムの更新(リモートアップデート)

ローカルアップデート

ローカルにある更新ファイルを使って更新を行う場合は、**ローカル**タブの[参照]ボタンをクリックして更新ファイルを選択した後、[イメージのアップロード]ボタンをクリックします(図2-10)。アップロードが完了するまでには数分間ほどかかります。

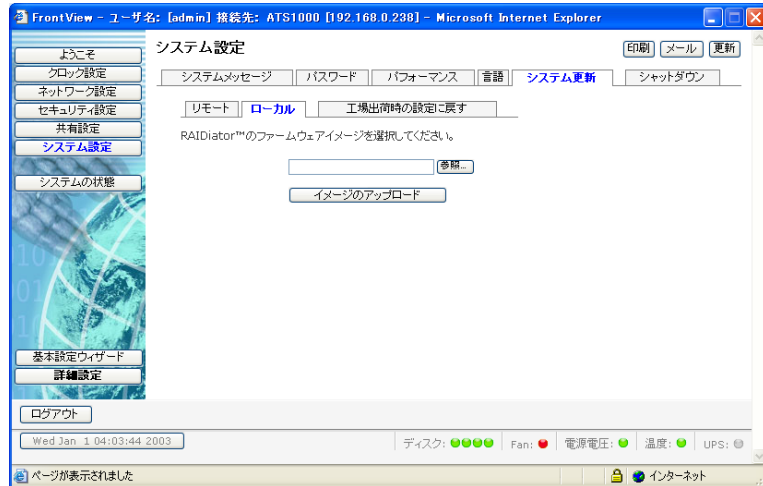


図2-10: ローカルアップデート

更新を行う場合には、[システム更新]ボタンをクリックしてください(図2-11)。更新が完了するとシステムを再起動することを促すメッセージが表示されますので、システムを再起動してください。この更新作業はファームウェアイメージの更新だけを行うものでボリュームのデータは変更されませんが、念のために重要なデータはバックアップを取っておくことをお勧めします。



図2-11: システムの更新(ローカルアップデート)

工場出荷時の設定に戻す

工場出荷時の設定に戻すタブの[工場出荷時の設定に戻す]ボタンをクリックすると、ATS1000のシステム設定が工場出荷時の状態に戻ります(図2-12)。この操作を実行した場合、ATS1000の設定およびデータは全て初期化されますので十分に注意して実行してください。必要なデータは必ずバックアップを取ってから実行してください。

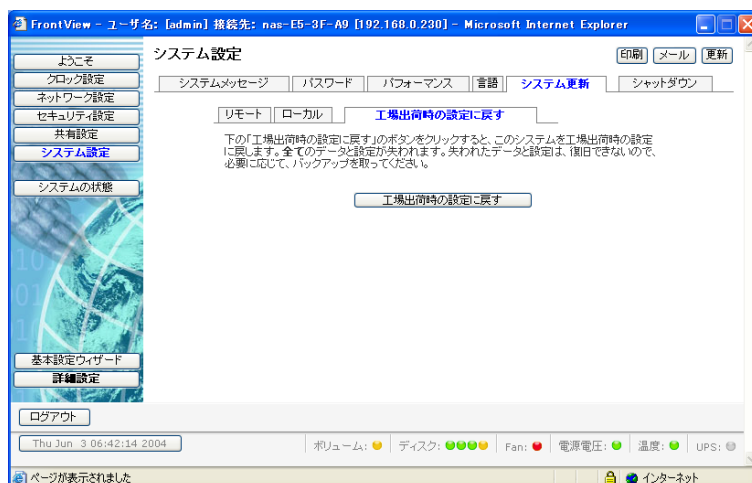


図2-12: 工場出荷時の設定に戻す

システムのシャットダウン(システム設定)

シャットダウンタブでは、シャットダウン(ATS1000の電源を切る)と、再起動(ATS1000を再起動する)が行えます(図2-13)。必要な操作を選択し[適用]ボタンをクリックすると操作を実行します。**次回起動時にボリュームのスキャンを実行する**にチェックを付けると、次回起動時にボリュームのスキャン(チェック)を自動的に行います。

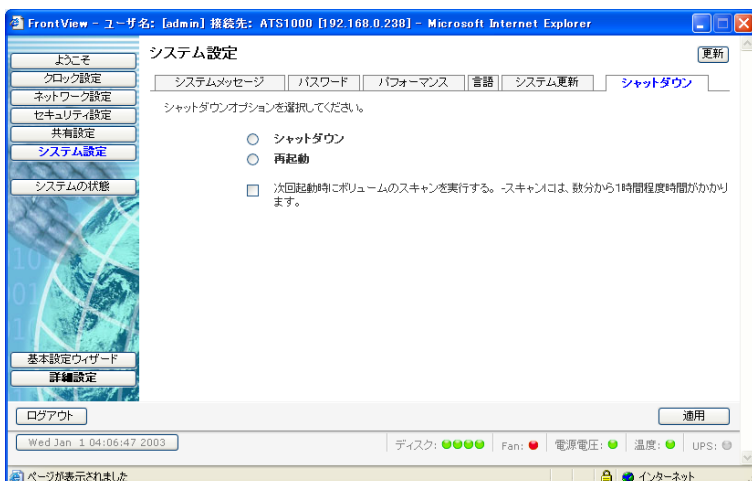


図2-13: シャットダウンオプションの選択

システムのモニタリング(システムの状態)

システムの状態ページでは、現在のシステムの状態とログ(履歴)を表示します。

ログタブでは、一定時間ごとに取得した管理タスクのステータス情報を表示します。各ログの先頭にあるランプアイコンの色は、赤の場合は致命的なエラー、黄色の場合は注意を要する事項、青の場合は正常な動作をあらわします。画面上部の[メール]ボタンをクリックすると現在の画面内容をEメールで送信することができます(図2-14)。

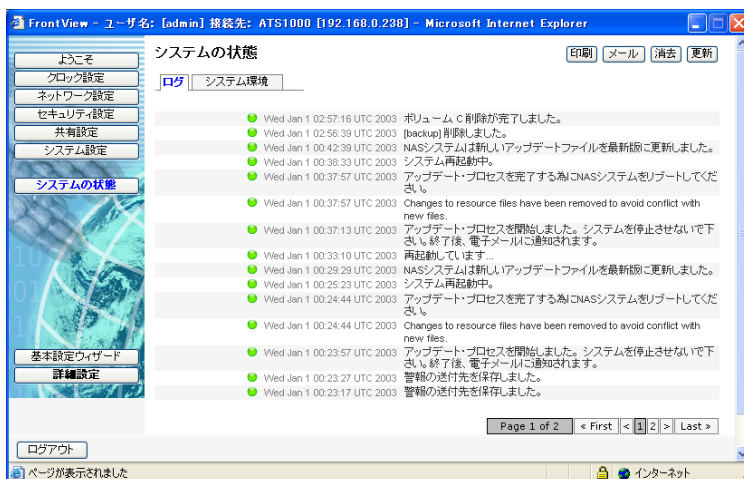


図2-14: システムログ

システム環境タブでは、ステータスバーに表示されている使用可能なハードディスク、CPUファン、電源電圧、温度、UPSについての詳細な情報を表示します。いくつかの項目については正常値または正常値の範囲が付記されます(図2-15)。



図2-15: システム環境

付録

用語集

困ったときに

仕様

保証とユーザサポート

Glossary

NAS(Network Attached Storage): ネットワークアタッチドストレージ

単機能サーバの一種。ファイルサーバに必要な機能だけを切り出して構成した専用の装置。

DHCP(Dynamic Host Configuration Protocol): 動的ホスト設定プロトコル

ネットワークに接続するクライアントに、IPアドレスやホスト名、DNSサーバ等のネットワーク情報を動的に割り当てる時に使用するプロトコル。

NTP(Network Time Protocol)

コンピュータの内部時計をネットワーク経由で正しく調整するためのプロトコル。

NFS(Network File System)

LinuxやUNIXで利用されているファイル共有システム。ネットワーク上の別のホストにあるファイルシステムをあたかもローカルファイルシステムの一部であるかの様に扱える。

RAID(Redundant Arrays of Independent Disks)

ディスクシステム全体を複数のディスクで構成し、ディスクアクセスのパフォーマンスを向上させたり、障害に対する堅牢性を高める機能。

RAIDレベル0(ストライピング)

全てのハードディスクにデータを分散して格納する。同時並行でデータを読み書きすることでパフォーマンスの向上が期待できる半面、冗長構成ではないため、構成ハードディスクの一台が故障すると全データが失われるデメリットを持つ。

RAIDレベル1(ミラーリング)

構成ハードディスク全てに同一のデータを格納する。構成ディスクのうち、一台のハードディスクが残っていれば、データを取り出すことが可能。最も堅牢であるが、ハードディスクの物理容量に対するオーバーヘッドが最も大きく、コストパフォーマンス面で不利というデメリットを持つ。

RAIDレベル4、RAIDレベル5

データに冗長部分をつけることで、ディスク故障等の障害が起きても冗長部分からデータを復元できる。

DNS(Domain Name System)

IPアドレスとホスト名の対応を管理するシステム。IPアドレスの数字だけでホストを管理するのはわかりにくいので、IPアドレスとホスト名を対応付けてホスト名でも管理できるようにする仕組み。

スナップショット

ディスクの状態を一時的に記憶しておく機能。スナップショットに対してバックアップを行うことで、システムを使用可能状態にしたままバックアップを取ることができる。(オンラインバックアップ)

ジャーナリング

ファイルシステムが持つ固有の属性情報に対して、その変更履歴の情報をジャーナルと呼び、ジャーナルを記録することをジャーナリングと呼ぶ。従来、システムが正常にシャットダウンされなかった場合、再起動時に全ての属性情報の整合性が取れているかどうかを確認する必要があったが、この処理は容量に比例して非常に長い時間を必要としていた。ファイルが壊れた際にジャーナルを基に修復することで、このような整合性確認処理を大幅に短縮できる。

UPS(Uninterruptible Power Supply): 無停電電源装置

停電などの電源異常が発生してもしばらくの間システムに電気を供給する装置。電源異常発生時に数分から数時間程度システムに電気を供給する。その間にシステム管理者は各装置をシャットダウンし、システムを安全な状態に保つことができる。

困ったときに

Troubleshooting/FAQ

Q1 RAIDar(装置検出用ソフトウェア)がインストールできません。

- A1.1 先にJava2 Runtime Environmentをインストールしてください。
- A1.2 RAIDarのインストールは管理者権限で行ってください。

Q2 異種OS間で日本語ファイル名が文字化けします。

- A2.1 ATS1000では、ファイル名の文字コードにUTF-8を利用しています。CIFS以外のファイルプロトコル
- 利用する場合、ATS1000を利用するPCのOSがUTF-8をサポートする必要があります。

Q3 RAIDarがNAS装置を認識してくれません。

- A3.1 ネットワークでDHCPサービスが提供されているか確認してください。
- A3.2 ひとつのネットワークにDHCPサーバが複数存在すると干渉を起こします。ネットワークで既にDHCP
- サービスが提供されている場合はATS1000側のDHCP機能を無効にしてください。
- A3.3 ATS1000のDHCP機能を使う場合、各クライアントのネットワーク設定はDHCPサーバで行うように指
- 定してください。(ネットワークアドレスの初期設定値は192.168.168.0になります)
- A3.4 クライアントに導入されているファイアウォールソフトウェアによって遮断されている可能性があります。
- 対応方法は導入されているソフトウェアにもよって変わりますので、管理担当者に問い合わせるか、あ
- るいはファイアウォールソフトウェアのマニュアルを参照してください。
- A3.5 RAIDarが動作しているPCのOSがWindowsXPの場合、ファイアウォール機能が無効になっている必要
- があります。次の手順にしたがって確認と設定を行ってください。
- 1. [スタート]→[コントロールパネル]の順にクリック
- 2. [ネットワーク接続]をダブルクリック
- 3. [ローカルエリア接続(現在使用している接続)]のアイコンを右クリック
- 4. [プロパティ]→[詳細設定]タブをクリック
- 5. [インターネットからのこのコンピュータへのアクセスを制限したり防いだりして、コンピュータとネット
- ワークを保護する]のチェックをはずす
- 6. [OK]をクリック

Q4 初めて電源を入れたにもかかわらず、ボリュームが「修復中」となります。

- A4.1 ATS1000では、標準でRAIDレベル5ボリュームを構築します。初回起動時には検査用のデータ(冗長
- データ)を構築しますが、その時にボリューム「修復中」と表示されます。これは異常ではありません。
- ボリュームが「修復中」であっても、通常と同様にファイル共有が行えます。

Q5 電源を投入するたびにフォーマットされてしまうのですか？

- A5.1 いいえ、一番最初に電源を投入したときか、ディスク装置を入れ替え、復旧したときのみです。

Q6 ディスクが2台障害を起こしてしまいました。データは無事でしょうか。

- A6.1 RAIDレベル1ボリュームを3台以上のHDDで構成している場合は、データは保護されます。RAIDレベル5ボリュームや、2台のHDDで構成されるRAIDレベル1ボリュームであった場合、データは失われます。ディスク障害が起きた場合は速やかにサポートセンターにご連絡ください。
- A6.2 RAIDは、ディスクのパフォーマンスを補い、またディスク障害に対して一時的なデータ保護を利用者に提供するものです。重要なデータのバックアップが必要となる点においては従来と変わりませんので、ご注意ください。

Q7 ATS1000の電源ランプが点滅しています。どのように対処すればいいのでしょうか？

- A7.1 システム起動時には、システムの準備が完全に整うまで電源ランプが点滅します。この場合は異常ではありません。システム起動時以外に電源ランプが点滅している場合にはなんらかの異常が発生していますので、サポートセンターへお問い合わせください。

Q8 ATS1000にアクセスできなくなりました。

- A8.1 ATS1000がネットワークに接続されているか確認してくださいATS1000がネットワークに接続されていない場合、ATS1000をネットワークに接続し、電源を再投入してください。(装置の電源ボタンを5秒間押し続けると、シャットダウン処理が始まり、電源が切れますので、もう一度電源ボタンを押して電源を入れてください)

Q9 ATS1000のファイルは見えるのですが、ファイルの書き込みができません。

- A9.1 ATS1000に対して、FTPにより書き込んだファイルは他のプロトコルからでは更新ができません。FTPにより削除してください。

Q10 スナップショット取得後、通常使用でスナップショット使用量が増えてしまいます。なぜでしょうか？

- A10.1 スナップショットは、データが更新された際にオリジナルのデータを逐一スナップショット領域にコピーし、スナップショット取得時のデータを保持する機能です。そのためファイルの更新を行った際に、スナップショット領域が消費されます。スナップショット後、そのデータが最初に更新された場合にのみ、スナップショット領域へのコピーが行われます。

Q11 スナップショット使用量が100%に近い状態になってしまいました。スナップショット使用量を減らすにはどうしたらよいのでしょうか？

- A11.1 スナップショット領域は常に書き足される領域ですので、スナップショットを破棄する、あるいはスナップショットを取り直す以外の方法で、使用量を減らすことはできません。

Q12 アクティブディレクトリサーバを新たに構築しましたが、NASをアクティブディレクトリサーバに参加させることができませんでした。

- A12.1 アクティブディレクトリを構築した後、Administratorのパスワードを更新しないと、ATS1000をアクティブディレクトリに参加させられない現象が確認されています。アクティブディレクトリのAdministratorパスワードを変更することをお試しください。

仕様

Specifications

一般仕様	
所要電源	AC100～120 AC220～240V 50/60Hz
消費電力	最大140W (起動時)
動作温度	5℃～45℃
動作湿度	10%～80%(結露を除く)
寸法(D×W×H) (mm)	442×442×43
重量	8.27kg (本体のみ)
ネットワークインタフェースコネクタ	RJ-45×1
その他I/Fコネクタ	USB×2, RS232C(D-Sub 9ピン メス)×1
付属品	19インチラックマウントキット, 電源ケーブル, 卓上用ゴム, CD-ROM, 取扱説明書(本書), 保証書
基本仕様	
ネットワーク準拠規格	IEEE802.3(10BASE-T) IEEE802.3u(100BASE-TX) IEEE802.3ab(1000BASE-T)
記憶容量	約700GB (RAID5構成時)
システムメモリ容量	128MB
サポートクライアント	Windows(XP/2000/Me/98SE/98)、Linux、UNIX、Mac OS(9/X) (初期設定には、WindowsがインストールされたPCが必要です)
サポートファイル共有 プロトコル	CIFS, NFS, AFP, FTP, HTTP

保証とユーザサポート

Warranty and User Support

保証、修理について

本製品の保証内容は、製品に添付されている「製品保証書」の「製品保証規定」に記載されています。製品をご利用になる前にご確認ください。本製品の故障の際は、保証期間の内外にかかわらず、弊社修理受付窓口へご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 修理受付窓口

Tel: 0120-860-332
携帯電話/PHS からは: 045-476-6218
月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～17:00

保証の制限

本製品の使用または使用不能によって生じたいかなる損害(人の生命・身体に対する被害、事業の中断、事業情報の損失またはその他の金銭的損害を含み、またこれらに限定されない)については、弊社は、その責を一切負わないこととします。

ユーザサポート

障害回避などのユーザーサポートは、次頁の「サポートに必要な情報」をご確認のうえ、弊社サポートセンターへご連絡ください。

アライドテレシス株式会社 サポートセンター

<http://www.allied-tesis.co.jp/support/info/index.html>

Tel: 0120-860-772
携帯電話/PHS からは: 045-476-6203
月～金(祝・祭日を除く) 9:00～12:00 13:00～18:00

サポートに必要な情報

お客様の環境で発生した様々な障害の原因を突き止め、迅速な障害の解消を行うために、弊社担当者が障害の発生した環境を理解できるよう、以下の点についてお知らせください。なお、都合によりご連絡が遅れることもございますが、あらかじめご了承ください。

1. 一般事項

○ 送付日

○ お客様の会社名、ご担当者

○ ご連絡先

すでに「サポートID 番号」を取得している場合、サポートID 番号をお知らせください。サポートID番号をご記入いただいた場合には、ご連絡住所などの詳細は省略していただいてもかまいません。

○ ご購入先

2. 使用しているハードウェア・ソフトウェアについて

○ シリアル番号(S/N)、リビジョン(Rev)をお知らせください。

シリアル番号とリビジョンは、本体に貼付されている(製品に同梱されている)シリアル番号シールに記載されています。

○ ソフトウェアバージョンをお知らせください。

ソフトウェアバージョンは、基本設定ウィザード初期画面(図1-6)または詳細設定画面のようこそページ(図2-1)上の、「ファームウェア」の項目に表示されています。

○ オプション(別売)製品を使用している場合は、製品名をお知らせください。

3. 問い合わせ内容について

○ どのような症状が発生するのか、それはどのような状況で発生するのかをできる限り具体的に(再現できるように)お知らせください。

○ エラーメッセージやエラーコードが表示される場合には、表示されるメッセージの内容を添付してください。

○ 可能であれば、設定スクリプトファイルをお送りください(パスワードや固有名など差し障りのある情報は、抹消してお送りくださいますようお願いいたします)。

4. ネットワーク構成について

○ ネットワークとの接続状況や、使用されているネットワーク機器がわかる簡単な図を添付してください。

○ 他社の製品をご使用の場合は、メーカー名、機種名、バージョンなどをお知らせください。

